

# 山口県介護支援専門員協会だより

令和元年度 第2号 山口県介護支援専門員協会広報事業部

## 第16回 山口県ケアマネジメント 研究大会の報告



令和元年10月26日（土）、山口県セミナーパークにて、第16回山口県ケアマネジメント研究大会を開催しました。今回は、「つながる・支える 医療介護の連携マネジメント～尊厳ある看取りのために～」をテーマに、135名の方々にご参加いただき、多くの学びや笑顔のあふれた大会となりました。

まず開会式が行われ、次に永年表彰式が行われました。今年度表彰を受けられた方（岡原真美さん、中村文子さん、藤川秀美さん、藤本美智子さん、鰐川智子さん、津田桂揮さん）は6名です。表彰式では二井会長から表彰状と記念品を表彰者の皆様へ贈呈されました。表彰を受けられた方はおめでとうございます！これからも多くのケアマネのお手本として、頑張ってくださいね。

基調講演として、「在宅医療で学んだこと」をテーマに安川診療所院長 安川修先生に講演をしていただきました。安川先生は在宅医療を積極的に行われており、担当された在宅患者は約950名。往診回数は述べ44000回。在宅での看取りについても精力的に取り組まれておられ、約400名もの方を看取られています。講義では安川先生の在宅医療における連携や患者とのつながり方について私たちケアマネジャーへ多くのメッセージをいただきました。

安川先生は以前は在宅医療に対する強い思いをもたれていたようですが、現在は看取られる場所について在宅でも施設でも構わないとの思いを持たれるようになったそうです。それは、在宅なら「在宅の良さ」があり、また施設であれば「施設の良さ」を知るようになったからです。在宅での看取りを希望されているご家族に対して、「なぜ自宅で看しているか」「自宅に置いているのはなぜか」など、親族間に想いの差がある現状についても、「在宅が特別な場所ではあってはいけない」「それぞれの地域で家で看取る文化をつくりあげる必要がある」との見解を話されていました。

在宅で看取りをする根底となる、「なぜ在宅がいいのか」、についても触れられました。在宅では

では目の前にいる患者・利用者が「子供」や「孫」など、関わる人との関係性によって、その人が「親」になったり、「おじいちゃん・おばあちゃん」になったりと・・・、つながり方が変わってくる。病院では今までのつながりが少なくなり切れてしまう。そこで、安川先生から私たちケアマネに対して、「患者・利用者のもとを訪れる際には、『良い顔』をして訪問してあげてほしい。そして、つながりを再構築してあげてほしい。良いつながりのある人は人生が豊かになる」と期待を込めて



話されました。講演の中で、その実践をもとに自身でつくられた歌をギターを片手に披露していただき、会場内は先生のやさしい歌声と演奏で、温かい雰囲気に包まれました。

午後からは3つの地域による研究発表や、「その人らしい人生を支える、考える」をテーマにシンポジウムが行われました。

### <研究発表>

- ・ICTを用いた業務改善  
光富士白苑居宅介護支援事業所 発表者 棟近 俊昭
- ・生活支援サービスが支える地域の暮らし～「地域ニーズの検討」～  
長門地域介護支援専門員連絡協議会 発表者 大野 陽子
- ・インフォーマルサービスに対する介護支援専門員の意識  
防府介護支援専門員協会 地域支援部 発表者 賀谷 教和



研究発表では、ICT機器の活用による生産性の向上や事業所内の利用者意識の変化についての報告やインフォーマルサービスの地域別に見た活用やインフォーマルサービスへの認知・関心についての意識調査などについてアンケート実施による結果分析の報告がありました。

### <シンポジウム>

「その人らしい人生を支える、考える」

- シンポジスト (一社) 山口県薬剤師会 理事 川上 英宏氏  
山口県訪問看護ステーション協議会 会長 柴崎 恵子氏  
指定居宅介護支援事業所げんき 管理者 福井 治枝氏
- コーディネーター (一社) 山口県介護支援専門員協会 常任理事 山本 誠氏
- コメンテーター 安川診療所 院長 安川 修氏

シンポジウムでは、シンポジストが安川先生から提供された事例について専門職の視点から回答されていました。チームケアを提供していく上で、専門職同士がお互いの立場を尊重し合いながら話し合い、患者・利用者を支えることができ、困った時には助けを互いに求め合える「つながり」がとても大切であると改めて認識させていただきました。



最後には毎年恒例となっています「お楽しみ抽選会」が行われました。今年も抽選会景品は多くの方々にご準備いただきました。紙面をお借りして、お礼を申し上げます。抽選方法は会員限定のホームページからの事前登録による抽選と当日大会参加者全員による抽選が行われました。ここでも安川先生にご協力いただき抽選会は大盛況で終えることができました。安川先生には今年度の研究大会すべてのプログラムへの参加していただきました。本当にありがとうございました。

### ～抽選景品を提供いただいた方々～

中央法規出版株式会社、東洋羽毛株式会社、株式会社ホームケアサービス山口、第一法規株式会社、株式会社トーゴマシーンサービス、株式会社ひまわり、株式会社日本トリム

会長賞（にいちゃん賞）、副会長賞（たちー賞、まっちゃん賞）、下関市（川崎会長）、周南市（藤本会長）、宇部市（綿田会長）



## 特集

### 下関市の医療・介護連携の取組み！ 『お薬手帳でケアマネと医療をつなぐキャンペーン』について

平成30年度の診療報酬、介護報酬同時改定において、入院時の医療・介護連携を迅速に行う項目が新設され、利用者の入院時に担当ケアマネの氏名や連絡先等を入院先に伝えることを利用者に依頼することが義務づけられ、入院時情報連携加算（Ⅰ）においても、情報は3日以内にという迅速さが求められるようになりました。

また平時から、利用者の口腔問題、服薬状況等、健康に関して把握した状態をケアマネから主治の医師や歯科医師、薬剤師に必要な情報伝達を行うことも義務づけられています。

これは、独居高齢者や老々介護、家族の勤め等により一人で受診したり入院が必要になるなど、生活の実態が共有しにくい支援困難なケースが増えていることから、生活等を把握している担当ケアマネと迅速に情報共有を図ることが求められているということです。また、入院当初、迅速に入院前の生活を情報共有し、退院後の生活をイメージした医療が提供されることで、早期にその人らしい生活に戻れるようにするという目的もあります。

そこで、下関市医師会、下関市歯科医師会、下関市薬剤師会、下関市介護支援専門員協会、行政等との代表者から構成される「下関市医療・介護連携推進協議会」での協議の結果、下関市介護支援専門員協会では平成30年10月より、普及率が高い利用者の”お薬手帳”の裏表紙をめくったところに、担当ケアマネの名刺を貼り付けることから始めることになりました。

「名刺を保険証と一緒に入れておいて下さい」などと、口頭で依頼していることもあるかと思いますが、医療機関に担当ケアマネが伝わらないことが多いのが現状のようです。アセスメント等でお薬手帳を確認させていただき、平時から医療と連携を図る。これこそA1にはできないケアマネの役割ではないでしょうか。

令和元年9月から、更なる推進のためのチラシやポスター、お薬手帳の表紙に貼る『ケアマネの名刺を貼っています』シールも作成され、名刺を貼っているお薬手帳だとすぐ分かるようになりました。下関市の医療機関では上記団体等からも推進されており、担当ケアマネをお薬手帳で確認することがメジャーになってきています。お薬手帳が新しく変わる時は、薬局等で貼り替えていただくようになっているので安心です。

まだ、お薬手帳に名刺を貼っていない下関市のケアマネは、医療機関から「お薬手帳に名刺を貼っておいてほしい」と言われる前に貼り付けた方がいいかもしれません。

下関市介護支援専門員協会 会長 河崎圭治

## 県協会主催 研修会報告

年度夏以後開催の研修を

アンケート結果とともにご報告いたします。



### ◇スーパーバイザー養成研修 基礎編

講師：社会保険大牟田天領病院 地域医療連携室課長 梅田真嗣氏

基礎編としてSVの枠組みと基本的な展開、相談援助の基本的知識の教授後、SVを行いました。

「糖尿病罹患者の過食異食」「サービス利用拒否と介護者のストレス」「ヘルパーに金銭管理を頼る認知症利用者」の事例3題を提供いただき、参加者としての質問の仕方、バイザーとしての視点や展開の実践を学びました。

- ・人が人を支援するという事が印象に残りました。事例を出された方の思いを大事にすることが次につながり思考過程にそっていき事が大切だと思いました。
- ・2度目の参加です。初めて参加では圧倒されて終わりましたが、今回は質問してバイザーに気付いてもらうプロセスに面白さと難しさを感じました。ゆっくり、丁寧に考えられたかと思います。
- ・改めて事例検討会の個人情報取扱いを再確認の必要性を感じた。
- ・事例提供者が質問を受けていく事によって落ち着いていく様子が感じられた。



### ◇老年期心理学と支援者の心構え

講師：西九州大学 健康福祉学部 社会福祉学科学科長 教授 滝口真氏

受講者が互いに「よろしくお祈りします！」と元気に挨拶することから始まりました。自分自身が受けて嫌な対応を無意識にしていないか、良い対応を意識して行っているかを振り返り、人に寄り添い支援することの意味を考えました。

ワークを通じて対象者の生きてきた時代や固有の歴史を理解することの意味と意義を学んだうえで、喪失の模擬体験を行い対象者の想いやスピリチュアルな痛みを実感することができました。

- ・自己の価値観が汚れた雑巾にならないよう、謙虚な姿勢、真剣に自己アセスメントしなければいけないと思いました。
- ・アセスメントは相手を知るだけでなく、自分を知ること（自己覚知）が大切だと学びました。
- ・死生観の疑似体験。辛かったけれど、死に直面した時に自分がどう感じるのか触れる事ができた。
- ・体験として気づきがたくさんありました。実践の場で、経験を積んでいきたいと思っています。
- ・日々の支援で、独りよがり、傲慢になっていた自分に気づきました。

### ◇若年性認知症・レビー小体型認知症研修会

講師：医療法人水の木会 下関病院 精神科医 中山寛人氏

気軽に相談してほしいとの願いから、院内カフェで蝶ネクタイ店長もされている認知症専門医の中山先生にご教示いただきました。それぞれの疾患の特徴、診断基準と症状、加えて活用できる社会資源や対応方法など、私たちが持つべき知識をご教示いただきました。多くの事例により身近でイメージしやすい内容でした。更にはご利用者ご家族に役立つリーフレット、私たちが活用できるリーフレットの紹介もあり、今後活かしていける学習機会になりました。

なにより、中山先生の「患者さんの尊厳を守り、ご家族の辛さを理解したい」という温かな想いに触れて感銘を受けた方がたくさんおられました。

#### 【若年性認知症】

- ・「助言が仇となるかも」、家族への支援（きれいごとではない）、家族も当事者。
- ・最新の情報等織り交ぜながら聞けたので、勉強になりました。
- ・当事者の気持ちがいかに大事か。支援する側は忘れてることが多いと認識した。

#### 【レビー小体型認知症】

- ・機能的に脆弱であることが理解できたので、配慮しながら見守っていこうと思った。
- ・先生の診療に基づく話も多く、イメージしやすかった。病気の理解も日々変わっていくので、新しい見方、考え方が盛り込まれて受講する価値がありました。
- ・様々な症状も、その医学的な根拠のあることがわかりました。身体症状にも注意を払いたい。

### ◇訪問看護活用の手引き研修

講師：山口県訪問看護ステーション協議会 会長 柴崎恵子氏

訪問看護師さんに支援してもらえる業務内容、指示書依頼の仕方、医療保険・介護保険の区分け、加算要件などの具体的な活用方法を教示いただきました。連携に役立つ知識や情報が満載の研修でした。

今後更に、医療依存度の高い利用者の在宅生活支援できる技量が重視されている私たちの支援の質を高める有意義な学びになりました。

- ・医療と介護保険での訪看がより理解できた。訪看を入れるメリット、家族の支援もしてもらえることが分かり、導入してみたいと思った。
- ・先生のお話の中に、まさに！と思うような事例の内容で、とても分かり易く勉強になりました。
- ・訪看利用開始にあたり、制度について知っておくべき事柄が思った以上にあり、今後利用者、家族、サービス事業所に迷惑や混乱がないように注意したい。

#### ◇在宅看取りのための医療・介護連携研修

講師：あめやまクリニック 院長 飴山晶氏



患者さんやご家族の“暮らし”に寄り添ってこられた飴山先生だからその貴重な看取り体験をご紹介いただきました。患者さんと長年に亘って築いてきた信頼関係が、「医者である私は腹を括っている」という言葉の重みに現れ、「お風呂が好きな方なら、もし入浴中に事切れても本望なのではないか。事業所の保身で入浴中止にすることはあってはならない」と話されました。

ケアマネとして、軽介護状態のときからACPを意識しながら関係性を築きあげることの重要性を学ぶ機会となりました。

- ・CMも腹を決める。改めて決意できました。最後の場面にご家族がもし間に合わなかったとしても、「今までこうやって見てきた事が全て」とドクターが言われて感動しました。
- ・ACP=看取りではないことに気づいた。むしろ元気なうちに話し合っておくべきこと。
- ・日頃の関わり、何気ない会話の中から本人の意向を引き出し、記録に残しておきたいと思った。
- ・「私の心づもり」を書いて「自分の今の立場」を振り返り考えるいい機会になった。年とともに変わっていく自分の気持ちを表現しておくことが大切と感じました。

#### ◇講師・指導者養成研修

講師：(一社)山口県介護支援専門員協会 会長 二井隆一氏 副会長 橘康彦氏 理事 山本亜紀氏

法定研修のみならず、各地域でも研修会や事例検討会の開催が増えています。ケアマネとしての知識と専門性を持った方々が後人育成することの重要性を鑑み、職能団体として講師・指導者養成研修を開催し、17名受講されました。今後も、聴講機会を設け、講師としての知識、技術を高める研修を重ね、法定研修講師を担える人材を育成して参ります。

- ・事前準備と事後の評価が大切と改めてわかった。時間がないのでやりっぱなしになっていることが多いので、他者評価やビデオを使ってやってみたいと思った。
- ・何となく地域でやっていたが、改めて組み立ての大切さや伝え方を学ばせてもらいました。まずは自事業所内のことから伝え方を改めたいです。

#### ◇研究の進め方研修会～研究計画書を作成しよう～

講師：山口大学大学院医学系研究科 教授 山根俊恵氏

利用者の自立支援、介護支援専門員の地位向上のために研究の初めの一步を踏み出せるよう、ご教授いただきました。内容は、テーマ設定、研究方法の選択や、研究を実践することに避けて通れない「研究計画書」の書き方についてであり、参加者にとって多くの学びを深められた研修となりました。

- ・研究も楽しいかもと思えました。クリティカルシンキングの大切さも実感できました。
- ・従来の研修より理解し易く自分にもできるのではないかと思った。未来への一步になるのでは？とちょっとワクワクした。
- ・報告ではなく研究である必要性を感じた。基礎的な所が分かり、少し不安が解消されました。
- ・これを学ばずして研究発表は有り得ないと以前の発表が恥ずかしすぎます。

年度末にはスーパーバイザー養成研修実践編、緩和ケアとコミュニケーション、苦情対応、生活困窮者支援の研修を開催し、専門職としてのスキルアップに役立てていただいています。

次年度の研修企画も盛りだくさんです。一緒に学び、実践力を高めていきましょう。ご参加お待ちしております！





# 地域協会紹介 (周南市介護支援専門員協議会)



今回は周南市介護支援専門員協会の藤本真樹会長より、会の取り組みについてご紹介させていただきます。よろしくお願いします！

当会の設置目的は、「介護支援専門員の倫理の確立、専門的技能の研鑽、交流の促進を図り、もって介護支援専門員の資質と社会的地位の向上に努めるとともに、保健・医療・福祉の援助を必要とする人々の生活と権利の擁護及び地域福祉の増進並びに介護保険制度の円滑な運営に寄与すること」です。

## 📌 研修会

当会では、年4回の研修会開催を目指しています。現場の介護支援専門員が「これが知りたかった！」という内容や、「共生」などその時代のポイントとなるものを、テーマにした研修会を企画しています。

### 【自主研修】



「身元保証人がいないケースを考える  
～事例検証を通して～」



「医療・介護・福祉制度にまつわるお金の話」



「総会では、年度初めということもあり、介護支援専門員に必要な接遇・マナーを学びました。」



慶応大学大学院教授 堀田聡子先生 講演

## 📍 交流

### 【ケアマネカフェ ENSEMBLE (アンサンブル)】

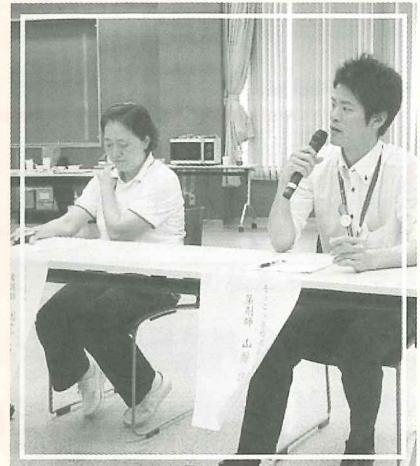
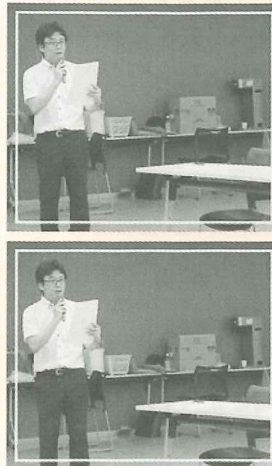


コーヒーを飲みながら、介護支援専門員同士が気軽に交流できる空間づくりを目的として2016年7月から不定期で開催しています。



## 📍 連携

### 【多職種連携研修会】



「普段の実践を通して、現状の在宅支援を共に考える交流会」  
徳山歯科医師会、徳山薬剤師会と一緒にワールドカフェ方式で勉強をしました。

「多職種連携により自宅で健康に暮らすために～事例を通して～」  
事例を通して、薬剤師や訪問看護師とお互いの専門性を理解することができました。

### 【あ・うんネット周南/チームあ・うんzero】

周南市には、医療介護連携を推進するあ・うんネット周南と、多職種の顔の見える関係づくりをするチームあ・うんzeroという団体があります。当会から数名が、ワーキングや研修企画に企画しています。チームあ・うんzeroが主催する「介護・医療ネットワーク研修会」は19回を数えます。また、ワーキングでは、連携を促進するツールを多職種と作りました。

## 📍 発信

2016年から年1回、当会の活動に関する広報誌「ケアマネ通信 アンサンブル」を発行しています。また、ホームページ（市会長個人用）にも活動の様子などを気が向いたときに掲載しています。興味のある方は、ご覧ください！



### 【入会案内！】

現在、周南市の会員は140名です。当会では、今後も目的を果たすために力を尽くして参りたいと考えています。しかし、我々役員だけでは、実現は不可能です。介護支援専門員協会へご入会いただき、皆さんのお力添えをお願いいたします！

# REHASquare

## リハスクエア山



専門の知識を持ったセラピストがあなたにあったトレーニングをご提供します。

当センターは最先端ロボットやトレーニング機器を活用した介護保険サービスと併用できる自費のパーソナルトレーニング施設です。

専門のトレーナーがお一人お一人にあった個別メニューであなたにあったトレーニングをさせていただきます。

※料金等詳細については、下記にお問い合わせください

### リハスクエア山口

山口市小郡下郷1276 大正通りクリニック内

☎083-902-2220 E-mail: info@rehasquare.com

介護用品・福祉機器販売・レンタル・リース



## 株式会社 西日本光洋

【本社】 介護保険事業所番号 3571200108  
〒742-0021 山口県柳井市柳井6764-1  
TEL.0820-23-6077(代) FAX.0820-23-6076

【周南(営)】 介護保険事業所番号 3571501356  
〒745-0801 山口県周南市久米五反田717-1  
TEL.0834-28-8877 FAX.0834-28-8876



皆様に笑顔、介護に安心をお届け致します。

## 株式会社 ひまわり

在宅事業部 〒751-0817 山口県下関市一の宮卸本町3番30号  
TEL 083-229-1505 / FAX 083-229-1506

検索サイト Yahoo!/Google

ひまわり 介護 検索

http://www.himawari.co.jp

### 【支社・営業所】

山口支店 〒747-0812 山口県防府市鋤物師町9番38号  
TEL 0835-27-5517 / FAX 0835-27-5518

北九州営業所 〒806-0058 福岡県北九州市八幡西区鉄竜1丁目4番14号  
TEL 093-644-4757 / FAX 093-644-4758

本社 〒751-0817 山口県下関市一の宮卸本町3番30号  
TEL 083-229-1500 / FAX 083-229-1501

IT事業部 〒751-0817 山口県下関市一の宮卸本町3番30号  
TEL 083-229-1600 / FAX 083-229-1601

東京支社 〒165-0026 東京都中野区新井1丁目1番5号 211号  
TEL 03-3385-7401 / FAX 03-3385-7407

福祉用具レンタル・販売/手すり取付工事

## 有限会社 スマイル・ケア

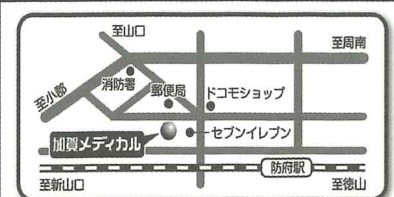
〒747-0014 防府市江泊1906  
TEL 0835-24-0776  
FAX 0835-24-6868

### 福祉用具の販売

### レンタル 住宅改修

みんなが笑顔で  
いられるように  
福祉用具と医療機器の  
プロフェッショナル。

加賀メディカル 検索



あなたの街の福祉用具・看護用品のお店

## 加賀メディカル

KAGA MEDICAL

〒747-0044 山口県防府市佐波2丁目10-12 fax: 0835-22-8225

☎0835-22-1408

✉ info@kaga-medical.co.jp □ www.kaga-medical.co.jp

## 東洋羽毛

### 睡眠セミナー 無料サービスのご案内

よく眠った人には、かなわない。

※—— 今よりもぐっすり、幸せな毎日のためのヒントがきっと得られるはずですよ —— ※

**睡眠セミナー講師を無料で派遣いたします。**

※

東洋羽毛では「睡眠健康指導士」の資格を有した社員が講師を務める充実したセミナーをご用意しています。正しい情報を得て睡眠習慣を見直し、イキイキと健康的な毎日を歩むお手伝いをさせていただければ幸いです。

### 《テーマ例》

- ★ 睡眠習慣を整え、キラキラ輝く私に
- ★ よりよく眠る為のヒント 睡眠6カ条
- ★ 体内時計を整えてよりよく眠る方法
- ★ よく眠れる、眠りのお話! ?
- ★ 眠る門には福来る!
- ★ 早起き・早寝・朝ごはんでいい事いっぱい

◎医療安全対策研修、メンタルヘルス研修、学校保健委員会に対応した内容も行っていきます。



東洋羽毛イメージキャラクター 桃井かおりさん

## TUK 東洋羽毛中国四国販売株式会社

〒753-0222 山口県山口市大内矢田南 8-12-2

セミナーに関するご相談はお気軽に

山口営業所 ☎ 0120 - 383843

～編集後記～ 今号を編集集中の1月末になっても暖かい日が続いている今冬。このまま春がやってくるのではないかと感じてしまいます(笑) 皆様のお仕事の合間に、県協会の広報誌で楽しんでいただければと思います!